

（2）政策的医療に関する評価チェックシート

評価の定義
○ 期待どおり又は期待以上
△ 事業の実施に問題はないが一部に改善の余地有り
× 事業の実施に支障有り。或いは法令違反有り。

評価項目	事業計画書の内容	評価対象事項	令和6年度の実績	自己評価	自己評価分析	市評価	評価所見
①救急医療	年間救急搬送件数は、令和4年度まで増加の一途をたどっており、令和5年度は1月までで1,773件（月平均177.3件）と、令和4年度の2,352件（月平均196.0件）には及ばないものの、着実に増加の実績を積み上げてきております。昨年度同様コロナによる病棟受け入れ制限等の影響もありましたが、手術を必要とする患者の受入体制強化等、断らない救急医療が着実に根付いてきていると実感しています。また、救急搬送患者のうち、入院加療が必要な患者は、約35%であり、地域の二次救急医療機関としての役割を果たしていると考えます。 ただし、救急搬送以外の時間外・休日受診においては、令和5年度は1月までで1,337件（月平均133.7件）と、コロナによる受診抑制ならびに感染予防によるインフルエンザ等の受診者減等の影響が続いているものと考えられます。 令和5年度においては、循環器内科医師の着任に伴い、循環器系疾患に係る救急患者の受け入れも可能となり、より救急体制が強化されと考えております。今後もあま市唯一の二次救急病院として、救急医療の提供に取り組むため、近隣の消防署等と連携を深めていきます。また、脳出血や心筋梗塞等の緊急を要する疾患等は、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院等の高次の医療機関へ適正に搬送するほか、診療所、施設等からの救急患者の受け入れを積極的に行い、地域の中核病院として役割を担っていきます。	・救急患者数 ・救急搬送件数	令和6年度の年間救急搬送件数は、2,167件（月平均180.6件）であり、令和3年度以降4年連続2,000件を超えました。1～12月の1年間においても2,000件を超え、救急医療体制確保加算を維持することができております。断らない救急医療の定着に加え、循環器内科の開設により、これまで高次医療機関へ搬送していた緊急を要する循環器疾患の受け入れも可能となりました。これにより、救急搬送患者のうち、入院加療が必要な患者の占める割合は約38%と、令和5年度の35%から増加し、受け入れられる患者の幅も広がってきております。今後も当院で受け入れの困難な疾患については、これまで通り日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院等の高次医療機関へ適正に搬送していきながら、地域の救急告示病院としての役割をさらに果たしていきたいと考えています。 ただし、救急搬送以外の時間外・休日受診においては、令和6年度は1,661件（月平均138.4件）と、令和5年度よりは増加したものの、コロナ以降低い水準にとどまっております。 今後も、地域の中核病院としての役割を担うため、近隣の消防署等と連携を深め、診療所、施設等からの救急患者の受け入れを積極的に行い、あま市唯一の救急告示病院として、引き続き救急医療の提供に取り組んでまいります。	○	救急医療においては、総合診療科を中心に幅広い疾患への対応を図りました。断らない救急医療の徹底により、救急搬送件数は2,167件、ウォークインによる救急患者数は1,661人と、昨年度実績を上回り、1～12月の1年間でも救急搬送件数が2,000件を超えたことにより、救急医療体制確保加算を維持しております。 令和7年度は皮膚科の開設等、より幅広い疾患に対応できる予定であり、引き続き近隣の消防署等との連携強化を図り、救急告示病院としての役割に努めて参ります。	○	救急搬送件数は年間目標をクリアし、令和3年度以降2,000件を超えていることは高く評価する。循環器内科の診療体制がさらに強化され、循環器疾患に対して地域完結型の医療提供が可能となってきたことも評価する。
②小児医療	令和5年度は、令和4年度と同様に総合診療医と名古屋大学病院医局からの非常勤医師と連携した診療体制とし、小児救急ならびに一般小児科の外来診療の対応をいたしました。令和5年度1月までの1日平均患者数3.4人（令和4年度3.0人）となり、前年度より患者数は増加したものの、依然として少子化、コロナによる外出抑制、感染症対策の強化・普及等による、風邪、発熱、下痢、嘔吐などの一般的な小児科疾患の罹患率の低下等の影響が続いていると考えられます。 令和6年度も引き続き、大学医局の協力を得ながら一次救急の役割を果たし、入院治療など必要な場合は近隣の医療機関と連携してまいります。	・患者数	令和6年度は、令和5年度と同様に総合診療医と名古屋大学病院医局からの非常勤医師と連携した診療体制とし、小児救急ならびに一般小児科の外来診療の対応をいたしました。しかしながら、外来患者数はコロナ以降低い水準となっており、令和6年度の1日平均患者数は3.6人（令和5年度3.4人）となりました。コロナ以降の感染対策の普及、国民の医療機関受診に対する考え方の変化、少子化等、医療機関を取り巻く社会情勢の変化が起因していると考えられます。 令和7年度も引き続き、大学医局の協力を得ながら一次救急の役割を果たし、入院治療など必要な場合は近隣の医療機関と連携してまいります。	△	総合診療医の中には小児科の専門医を取得している医師もあり、午前は非常勤の小児科専門医により、午後は常勤の小児科専門医により診療を行う体制が取られています。 目標には届きませんでしたが、昨年度よりも患者数は増加しており、コロナにより一時患者数が減少した時期から、少しずつではありますが、回復してきていると考えられます。 引き続き、小児医療の充実を図ります。	△	小児医療については、前年度比で51人の外来患者数が増加したものの、常勤医がいないことや入院治療を行っていないことが影響し、外来患者数が計画には届いていない。政策的医療のひとつに位置づけた小児医療のさらなる充実に期待する。
③リハビリテーション医療	回復期リハビリテーション病棟は、令和5年度は1月までで1日平均患者数30.5人と、令和4年度36.8人から減少し、1患者あたりの提供単位数も、令和5年度は1月までで平均5.7単位と令和4年度の平均5.8単位から減少しました。 令和6年度はリハビリ職員を増員し、提供単位数の増加を目指します。 また、コロナ五類移行後再開した外来リハビリテーションについても、拡充を目指して参ります。	・リハビリテーション実施件数	令和2年度に開棟した回復期リハビリテーション病棟は、令和6年度は1日平均患者数41.2人と、令和5年度38.5人から増加しました。 外来リハビリテーションも含め、今後もさらにリハビリテーション医療を強化してまいります。	△	回復期リハビリテーション病棟の稼働率は前年度より増加し、91.6%となりましたが、提供総単位数は前年度の152,040単位から125,988単位に減少しました。また、患者数が増加したことと、1患者当たりの提供単位数は前年度の5.6単位から5.3単位と減少しました。 今後も1患者当たりの目標提供単位数の6単位を達成できるよう単位数増加及びリハビリテーション医療の充実に努めてまいります。	△	回復期リハビリテーション病棟の開設から5年目となり、高い利用率で稼働しているため、自院での手術件数の増加や病診・病病連携が上手く機能しており評価する。 しかしながら、患者数の増加に伴って1患者当たりの提供単位数が減少していることから、目標提供単位数の6単位に近づけるように引き続きセラピストの確保を行い、リハビリ提供単位数の増加に努めてください。

（2）政策的医療に関する評価チェックシート

評価の定義
○ 期待どおり又は期待以上
△ 事業の実施に問題はないが一部に改善の余地有り
× 事業の実施に支障有り。或いは法令違反有り。

評価項目	事業計画書の内容	評価対象事項	令和6年度の実績	自己評価	自己評価分析	市評価	評価所見																											
④保健衛生事業	令和5年度は、コロナ五類移行後、ヘルスプロモーションセンターを立ち上げ、事業所健診等を一部再開しました。 引き続き、子宮がん検診、乳がん検診、事業所検診、及び個人健診や予防接種など幅広い保健衛生事業を実施いたします。また、ヘルスプロモーション事業として、糖尿病の健康教室などの公開健康講座等を開催し、市民の健康づくりに寄与します。さらに、地域住民だけでなく、地域の施設、事業所の施設関係者等々への啓蒙活動や市と共同した保健衛生活動を実施するなど、さらなる健康増進・維持、健康な地域づくりに取り組みます。 <table><tr><td></td><td>目標値</td><td>備考</td></tr><tr><td>子宮がん・乳がん検診</td><td>700人</td><td></td></tr><tr><td>企業健診等</td><td>2,000人</td><td></td></tr><tr><td>予防接種</td><td>1,000人</td><td>肺炎球菌、インフルエンザ等</td></tr></table>		目標値	備考	子宮がん・乳がん検診	700人		企業健診等	2,000人		予防接種	1,000人	肺炎球菌、インフルエンザ等	・子宮がん、乳がん検診の実施件数 ・企業健診等の実施件数 ・予防接種の実施状況	令和6年度は、前年度に立ち上げたヘルスプロモーションセンターの運営を行い、保健衛生事業の拡充を図りました。事業内容としては、子宮がん検診、乳がん検診、事業所検診、及び個人健診や予防接種など幅広い保健衛生事業を実施いたしました。コロナワクチンの接種が終了したため、予防接種は減少しましたが、健康診断は前年度を200件以上上回り1,615件となりました。令和7年度は、これまで火曜日と金曜日に行っていた健康診断を木曜日にも行い、業務拡大を行ってまいります。 また、ヘルスプロモーション事業として、健康経営セミナー、糖尿病の健康教室などの公開健康講座等を開催し、市民の健康づくりに寄与しました。今後も保健衛生に関わるイベント等を開催し、地域住民だけでなく、地域の施設、事業所の施設関係者等々への啓蒙活動や市と共同した保健衛生活動を実施するなど、さらなる健康増進・維持、健康な地域づくりに取り組みます。 <table><tr><td></td><td>実績値</td><td>備考</td></tr><tr><td>子宮がん・乳がん検診</td><td>257人</td><td></td></tr><tr><td>企業健診等</td><td>1,615人</td><td></td></tr><tr><td>予防接種</td><td>825人</td><td>肺炎球菌、インフルエンザ等</td></tr><tr><td>新型コロナウイルスワクチン接種</td><td>67人</td><td></td></tr></table>		実績値	備考	子宮がん・乳がん検診	257人		企業健診等	1,615人		予防接種	825人	肺炎球菌、インフルエンザ等	新型コロナウイルスワクチン接種	67人		△	協会けんぽの生活習慣病予防健診受託を開始し、健診・検診の拡充を図りました。また、フレイル予防活動教室への理学療法士派遣や、院外での健康増進イベント、感染管理講座や糖尿病予防に関する講座の実施等、啓発活動についても積極的に行いました。 しかし、目標には到達していません。令和6年度健診は火・金の週2日でしたが、令和7年度は火・木・金の週3日に稼働日を増やし、特定保健指導を実施する予定です。	△	ヘルスプロモーションセンターが稼働し、企業健診等は目標には届いていないが、人数は前年度に比べて増加したことは評価する。令和7年度は健診の曜日が1日増える予定のため件数の増加に期待する。 健康経営セミナーなどで健康に関する啓発を院外でも行うなど、広く市民に周知を行う姿勢を評価する。 引き続き健康づくりの啓発活動に取り組んでください。
	目標値	備考																																
子宮がん・乳がん検診	700人																																	
企業健診等	2,000人																																	
予防接種	1,000人	肺炎球菌、インフルエンザ等																																
	実績値	備考																																
子宮がん・乳がん検診	257人																																	
企業健診等	1,615人																																	
予防接種	825人	肺炎球菌、インフルエンザ等																																
新型コロナウイルスワクチン接種	67人																																	
⑤災害時医療	あま市地域防災計画に基づき策定した「あま市民病院 災害対応に関する基本方針・災害対策マニュアル」「あま市民病院 災害時事業計画書（BCP）」「あま市民病院 水害（洪水・内水）非難確保計画」についても見直しを行っていきます。また、地域の消防署、行政機関等の関連機関との連携を強化し、地域の総合防災訓練に参加して参ります。 また防災避難訓練については、質の向上に向けより実践的な行動が出来るよう令和5年度はトリアージ訓練を実施しました。今後は災害対策本部立ち上げ等、机上訓練も含め、職員一人一人が災害時にどのように動く必要があるのか、理解を深める訓練も行っていきたいと考えています。 <table><tr><td></td><td>頻度</td><td>内容</td></tr><tr><td>防災避難訓練</td><td>2回/年</td><td>院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。併せて炊き出し訓練も実施。</td></tr><tr><td>海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練</td><td>適宜</td><td>訓練参加</td></tr></table>		頻度	内容	防災避難訓練	2回/年	院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。併せて炊き出し訓練も実施。	海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練	適宜	訓練参加	・研修等の実施状況 ・訓練の実施状況	あま市地域防災計画に基づき、令和2年9月に「あま市民病院 災害対応に関する基本方針・災害対策マニュアル」、令和3年2月に「あま市民病院 災害時事業計画書（BCP）」、令和3年8月に「あま市民病院 水害（洪水・内水）非難確保計画」を策定しました。今後はこれらの見直しを行っていく予定です。また、地域の消防署、行政機関等の関連機関との連携を強化し、地域の総合防災訓練に参加しました。 また防災避難訓練については、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院と共同で机上訓練を行いました。当院では2mまでの浸水を想定し、地盤のかさ上げ等を行い建てられています。3mの浸水が起こった場合は非常用発電機も作動することができず、殆どの機能が停止してしまうことが分かり、共有しました。改善点は多くありますが、今後も様々な状況を想定した訓練を行っていくことで、有事の際に対応できる体制を強化していきたいと考えています。 <table><tr><td></td><td>実施日</td><td>内容</td></tr><tr><td>防災避難訓練</td><td>9月・3月</td><td>院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。</td></tr><tr><td>海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練</td><td>6月 —</td><td>海部地方総合防災訓練への参加 あま市総合防災訓練は台風の為中止</td></tr></table>		実施日	内容	防災避難訓練	9月・3月	院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。	海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練	6月 —	海部地方総合防災訓練への参加 あま市総合防災訓練は台風の為中止	○	法令で定められている訓練を実施し、災害時等に対応できる対策を図りました。9月の防災避難訓練においては日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院と共同で机上訓練を行いました。他の医療機関と共同で行うことで、これまで見えていなかった課題も見えてきて、非常に有益な時となったとともに、机上訓練の大切さも実感しました。 また、必要な防災備品等の整備も行いました。	○	院内の防災避難訓練に加えて、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院と共同で机上訓練を行うなど常に災害を想定した防災体制を構築しており高く評価する。 また、実際に必要な防災備品等の整備も行われており防災意識が高い点についても評価する。									
	頻度	内容																																
防災避難訓練	2回/年	院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。併せて炊き出し訓練も実施。																																
海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練	適宜	訓練参加																																
	実施日	内容																																
防災避難訓練	9月・3月	院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。																																
海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練	6月 —	海部地方総合防災訓練への参加 あま市総合防災訓練は台風の為中止																																